

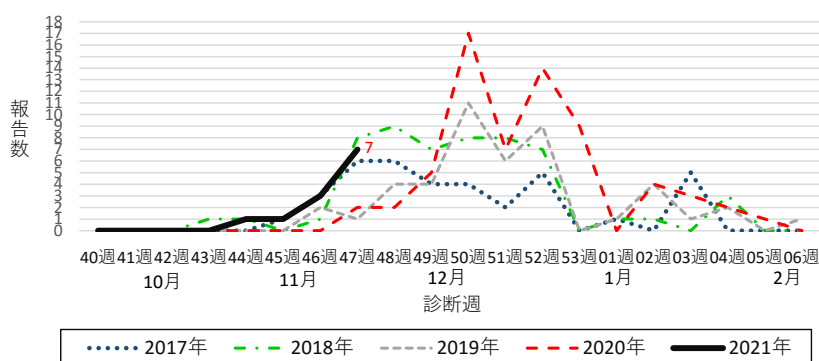
【今週の注目疾患】

《つつが虫病》

2021年47週に県内医療機関からつつが虫病が7例報告され、前週の3例からさらに増加し、2021年の累計は34例となった。7例の届出の内訳は、性別では女性が5例（71%）、男性が2例（29%）で女性が多く、年齢は中央値が71歳【範囲67歳-89歳】であり、全員60代以上の高齢者であった。保健所管内別では、安房保健所管内が5例（71%）、印旛・君津保健所管内からそれぞれ1例ずつ報告があった。7例中6例ではいずれも痂皮（かさぶた）が認められており、ダニ等からの刺咬が疑われる。

県内のつつが虫病の発生動向には季節性が認められており、以下のように例年秋口（10～11月）頃から翌春の2月頃にかけて報告が多く見られる（図1）。また、これまで患者の報告のあった地域は県内広範囲に渡るが、偏りが見られており、過去5年間において、安房保健所管内からの報告が239例中150例（62.8%）と最も多く、次いで夷隅保健所管内（48例/239例,20.1%）、市原保健所管内（12例/239例,5.0%）からの報告が多い傾向があった（表1）。つつが虫病の流行シーズンは今後もしばらく続くため、引き続き感染には十分注意が必要である。

（図1）第40週～翌6週までの県内におけるツツガムシ病報告数の推移（2017年以降）



（表1）2017年～2021年47週までのツツガムシ病の保健所管内別報告数と割合

診断年	安房	夷隅	市原	海匠	君津	印旛	長生	山武	習志野	香取	市川	千葉市	合計
2017年	19	12	4	1	1					1			38
2018年	41	7	4				3						55
2019年	29	7	3	1	2	1		2			1		46
2020年	39	13	1	7	1	2	1		2				66
2021年	22	9			1	1						1	34
合計	150	48	12	9	5	4	4	2	2	1	1	1	239
割合(%)	62.8%	20.1%	5.0%	3.8%	2.1%	1.7%	1.7%	0.8%	0.8%	0.4%	0.4%	0.4%	

つつが虫病はダニの一種であるツツガムシによって媒介される疾患であり、病原体はリケッチアの一種である *Orientia tsutsugamushi* である。野山等へ入り、これらを有するツツガムシに刺咬されることによって感染する機会が多い。本疾患の予防にはダニからの刺咬を防止することが最も重要であり、農作業や森林作業時、レジャーなどで野山等へ入る際には皮膚の露出をなるべく少なくしたり、ダニ忌避剤を使用し、皮膚へのダニの付着を防ぎ、刺咬されないように心掛ける必要がある。

《インフルエンザ》

2021年47週に定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たりの報告数は0.02人であり、前週とほぼ同数であった。依然として県全体では流行開始の目安としている指標（定点当たりの報告数1.0人）を大きく下回っているが、42週以降患者が継続して報告されており、今後の発生動向は注意深く見守っていく必要がある。

今シーズンの県内定点医療機関の協力によるインフルエンザウイルス迅速診断結果の報告では19例中B型が11例（57.9%）、A型が8例（42.1%）であり、B型が多い傾向が認められている。

現在、世界的に見てもインフルエンザの活動性は低いままであるが、WHOの直近のレポート（Global Influenza Programme）によると、昨年と比較してインフルエンザの検出数がわずかに増加しており、ヨーロッパや南アジア、南アフリカ等一部の国・地域ではCOVID-19発生以前のパターンに戻る兆候が見られてきているとの報告がある。型別ではA型に比べてB型がやや優勢（A型45.4%、B型54.6%）であり、A型のうちH3N2は86.1%、(H1N1)pdm09は13.9%、B型はすべてVictoria系統に属していた¹⁾。

また、米国CDCにおいても直近数週間においてインフルエンザA（H3N2）ウイルスの増加が検知され医療従事者や専門家向けでアラートを発出している²⁾。

昨シーズンは国内においてインフルエンザの流行がほとんど見られず、インフルエンザに対するコミュニティの保護レベルが低くなっている可能性があり、また今シーズンの流行時期や規模は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生状況も影響するため不透明である。インフルエンザの基本的な予防策として、インフルエンザワクチンを接種することや流行期には人混みを避けること、マスク着用、外出後のうがい、手洗いの励行等を着実に実施することが重要である³⁾。

■参考

1) Global Influenza Programme Influenza Update N^o407 (WHO)

<https://www.who.int/teams/global-influenza-programme/surveillance-and-monitoring/influenza-updates/current-influenza-update>

2) Increasing Seasonal Influenza A(H3N2)Activity, Especially Among Young Adults, in the Setting of SARS-CoV-2 Co-circulation (CDC)

<https://emergency.cdc.gov/han/2021/han00458.asp>

3) インフルエンザとは（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>